

# 2021年10月期 第3四半期 IRミーティング資料

2021年9月17日

 **クミアイ化学工業株式会社**

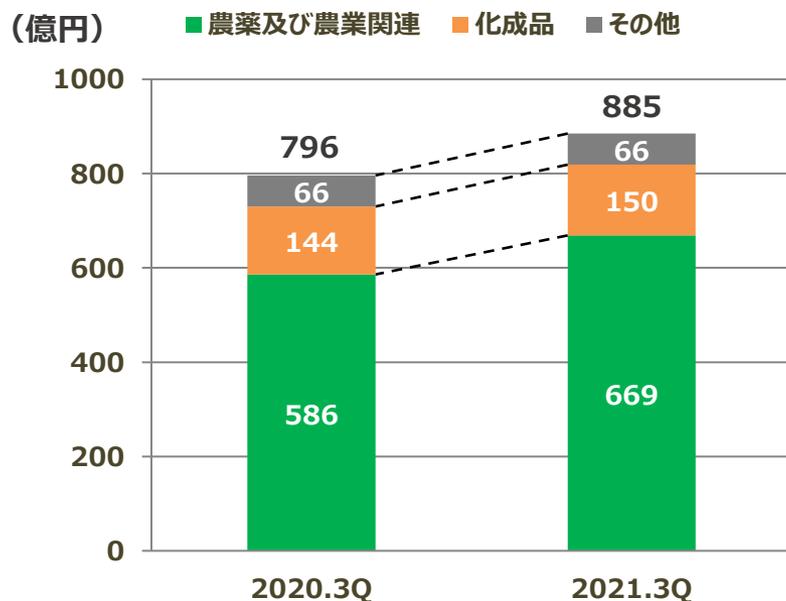
# 2021年10月期 第3四半期実績

(億円)	2020 3Q 実績	2021 3Q 実績	前年比	増減要因
<b>売上高</b>	<b>796</b>	<b>885</b>	<b>+89</b>	
農薬及び農業関連	586	669	+83	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上期の国内農薬事業の増収</li> <li>・アクシーブ剤の好調な出荷による増収</li> </ul>
化成品	144	150	+6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩素化事業は回復遅れるも、精密化学品の需要回復で微増</li> </ul>
<b>営業利益</b>	<b>58</b>	<b>69</b>	<b>+11</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬事業の売上増加がけん引</li> <li>・化成品事業は減価償却等費用増</li> </ul>
<b>経常利益</b>	<b>66</b>	<b>90</b>	<b>+24</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替差損益等</li> </ul>
<b>四半期純利益</b> *1	<b>45</b>	<b>63</b>	<b>+18</b>	

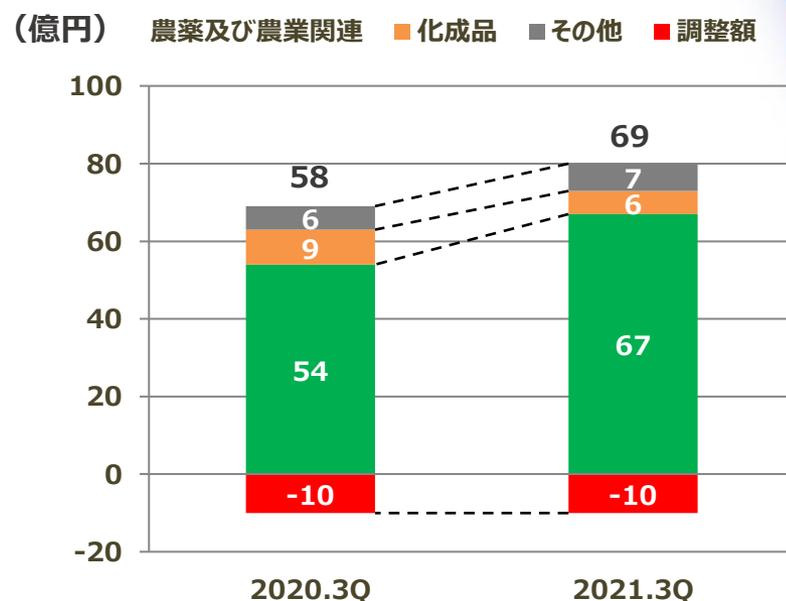
\*1親会社株主に帰属する四半期純利益

# セグメント別売上高及び営業利益

## 連結売上高



## 連結営業利益



	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	+ 83億円	+ 13億円
化成品	+ 6億円	- 3億円
その他	+ 1億円	+ 2億円

# 農薬及び農業関連事業

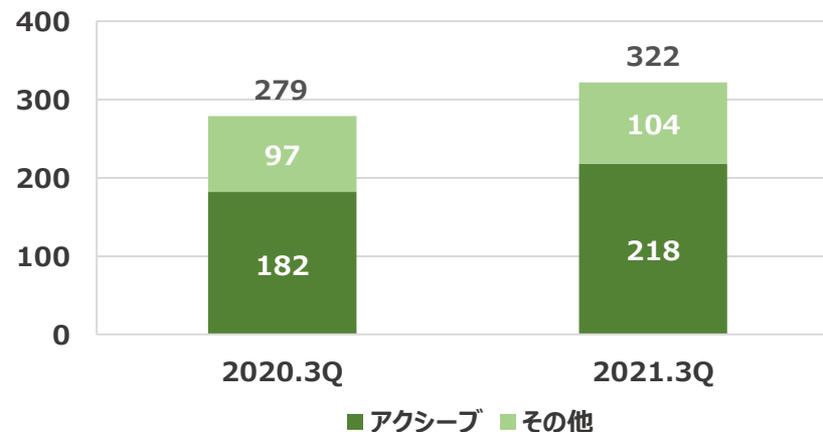
## 第3四半期の進捗

国内	前年比40億円の増収 エフィーダ剤、ディザルタ剤を含む水稻箱処理剤が好調に推移
海外	前年比43億円の増収 アクシーブの米国・アルゼンチン・ブラジル向け販売が好調に推移 良好な市場環境により通期計画に向けて上振れて推移

国内売上高



海外売上高



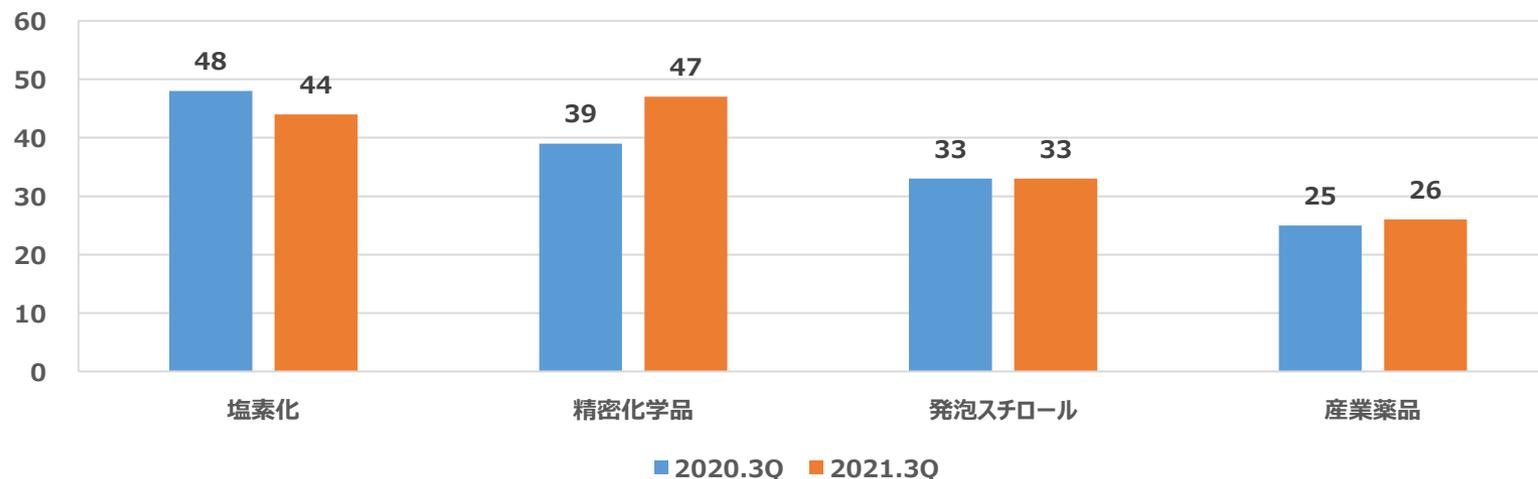
# 化成品事業

## 第3四半期の進捗

塩素化	引き続きコロナ禍の影響残る 新工場稼働による償却費、原材料高などによる利益圧迫
精密化学品	半導体需要の高まりを受けビスマレイミド類が好調に推移
発泡スチロール	前年並みに推移
産業用薬品	

(億円)

小セグメント別売上高推移



# 2021年10月期第3四半期 総括

## ▶ 事業全体（増収増益）

- ✓ 農薬及び農業関連事業が好調に推移
- ✓ 化成品事業は引き続きコロナ禍影響残る

## ▶ 農薬及び農業関連事業（増収増益）

- ✓ 国内はエフィーダ剤、ディザルタ剤を含む水稻箱処理剤が好調に推移
- ✓ 海外はアクシーブ剤が好調に推移

## ▶ 化成品事業（増収減益）

- ✓ 塩素化事業は引き続きコロナ禍影響残る
- ✓ 精密化学品事業は半導体需要の高まりを受け好調に推移

## ▶ その他事業（増収増益）

- ✓ 建設事業が繰り越し工事及び進行基準工事の影響で好調に推移

# 2021年10月期 連結業績予想

(億円)	2020 実績	2021 修正予想*2	増減	増減要因
<b>売上高</b>	<b>1,073</b>	<b>1,134</b>	<b>+61</b>	—
農薬及び農業関連	794	832	+38	海外：アクシーブ増収、AAI社（+） 国内：エフィーダ、箱処理剤増収（+）
化成品	189	214	+25	・コロナ禍からの回復（+）
<b>営業利益</b>	<b>83</b>	<b>83</b>	<b>+0</b>	・自社剤比率の上昇、原価低減（+） ・調達価格上昇による原価高（-） ・販管費、減価償却費の増加（-） ・アクシーブ関税税率変更によるコスト増（-）
<b>経常利益</b>	<b>99</b>	<b>106</b>	<b>+7</b>	・為替差益（+）
<b>当期純利益*1</b>	<b>66</b>	<b>74</b>	<b>+8</b>	—

\*1親会社株主に帰属する当期純利益

\*22021年6月8日に業績予想修正を開示

# 自社開発剤の紹介

エフィーダ  
ディザルタ

# 自社開発剤の紹介 (エフィーダ)



エフィーダ	
主な用途	水稲用除草剤 (国内・韓国)
販売開始	2019年～
ラインナップ	国内：6剤 (エンペラー、ベルーガ、アバンティ、プライオリティ、ベツカク、ツイゲキ) 海外：韓国6社に導出
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 既存薬剤抵抗性雑草への高い効果</li> <li>(2) 水稲に対する高い安全性</li> <li>(3) 雑草の発生前から生育期まで幅広い時期に使用可能</li> </ul>
海外展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 韓国での販売 (水稲)</li> <li>(2) 欧州での原体登録を申請済 (ムギ類、水稲)</li> </ul>
成長戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) エフィーダを原動力に国内水稲一発処理除草剤分野でシェアNo.1を奪還 (2021年実績) → 来期以降も更なるシェア拡大によりNo.1独走を目指す</li> <li>(2) 海外開発の推進による大型剤への成長</li> </ul>



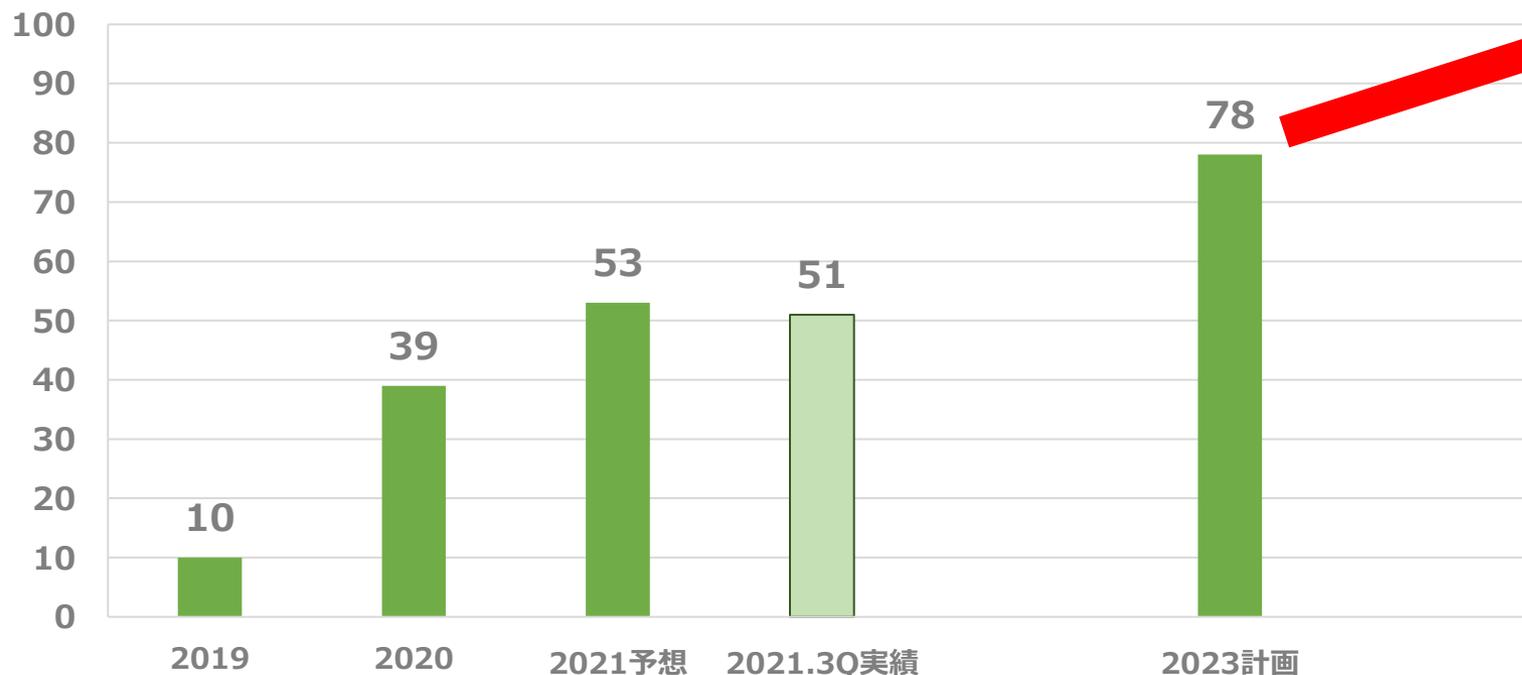
# 自社開発剤の紹介（エフィーダ）

## エフィーダの売上高推移

- ✓ 今期も着実に成長、中期経営計画に対して順調に推移
- ✓ 将来的な欧州での販売により、売上高100億円超の大型剤への成長を目指す

(億円)

エフィーダ剤売上高推移



# 自社開発剤の紹介 (ディザルタ)

## ディザルタ (製品名: ブーン)



主な用途	水稲用殺菌剤 (国内)
販売開始	2021年～
ラインナップ	4剤 (ブーンゼクテラ、ブーンパディート、ブーンレパード、ブーンアレス) ※ブーンアレスは2022年度から販売開始
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 水稲の重要病害である「いもち病」への高い防除効果と長い残効性</li> <li>(2) イネ本来の病害への抵抗性を誘導し、病気にかかりにくくする作用性</li> <li>(3) 耐性菌発達リスクが低く、市場における価値が長期的に変わらない</li> </ul>
海外展開	(1) 韓国で開発中 (水稲)
成長戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 水稲箱処理剤の基幹有効成分として自社販売及び他社への導出</li> <li>(2) 水稲以外への適用拡大</li> </ul>

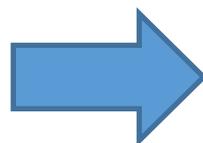


# 自社開発剤の紹介 (ディザルタ)

## 箱処理剤について



育苗箱



移植 (田植え)

### 箱処理剤は、育苗箱に使用する農薬です

水稲の病害虫を長期間防除し、水田に直接散布する農薬の回数を減らすことを可能にする優れた製剤技術  
対象病害虫に応じて2~4成分の有効成分含んだ製品

### 特長

- ✓ 農薬を効率よくイネに吸収させ、病害虫を長期間防除
- ✓ 水田全体と比べて約1/300の面積への散布で効果を発揮
- ✓ 水田に直接散布しないため、周辺環境への飛散がない
- ✓ 田植えの繁忙期に農薬散布を省くことが出来る

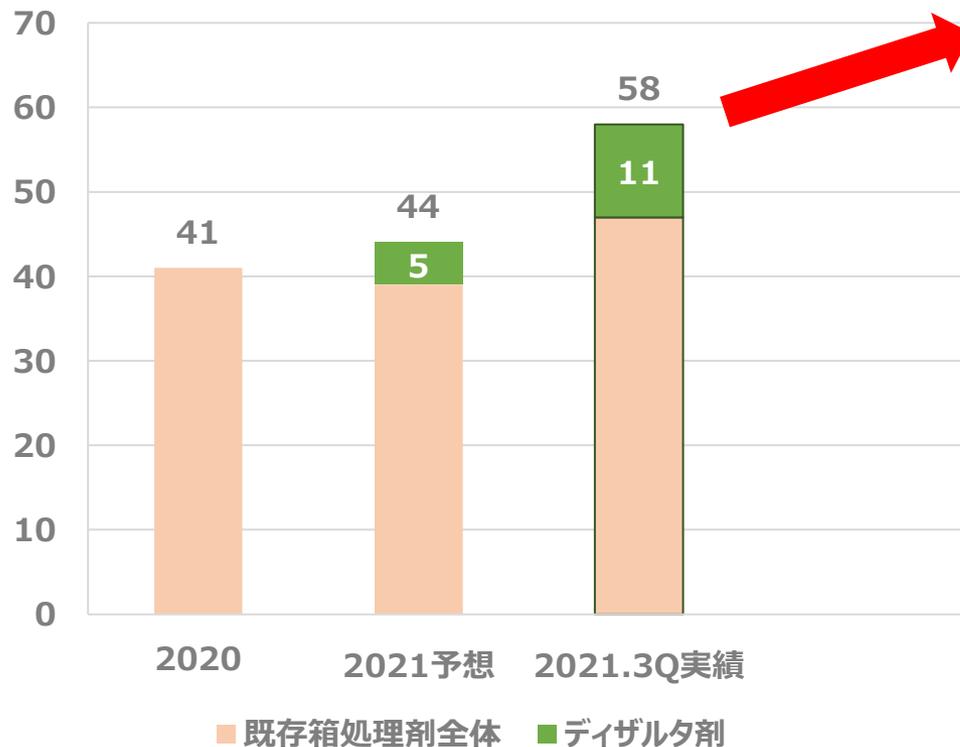
# 自社開発剤の紹介 (ディザルタ)

## 箱処理剤及びディザルタの売上高推移

- ✓ 2021年度はディザルタ剤及び水稻箱処理剤全体が好調に推移
- ✓ 国内での成長に加え海外での開発も進め、更なる成長を進める

(億円)

ディザルタ剤売上高推移



ディザルタ剤 (ブーン剤)



ピラキサルト剤



# みどりの食料システム戦略に係る 当社の方針及び取組について

# みどりの食料システム戦略概要

## みどりの食料システム戦略（2021年5月に農水省発表）

新たな技術体系の確立とイノベーションにより、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現する

中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費というサプライチェーン全体に亘るカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進



農林水産省資料より抜粋

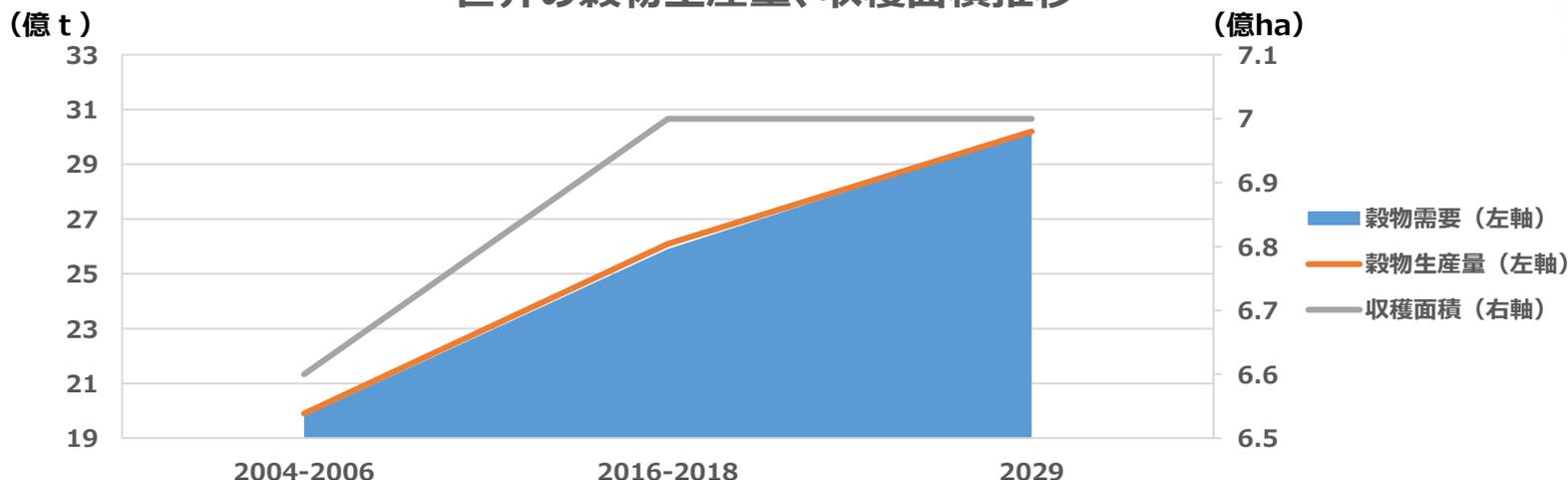
## 2050年までに目指す姿（当社に関係が深いものを抜粋）

- ✓ 農林水産業のCO<sub>2</sub>ゼロエミッション化の実現
- ✓ 化学農薬の使用量をリスク換算で50%低減
- ✓ 耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%、100万haに拡大

# 食料生産の現状

- ✓ これまでは収穫面積の増加及び単収の増加が生産量増をけん引
- ✓ 今後は自然環境保護など環境面の問題から収穫面積の増加は見込めず、単収の増加による生産量増が必要

世界の穀物生産量、収穫面積推移



出典：農林水産政策研究所 世界の食料需給の動向と中長期的な見通し

生産量の増加には・・・収穫面積の増加、単収の増加

収穫面積の増加→非農耕地の農地化、灌漑設備の整備

単収の増加→生産技術の向上（農薬、品種改良、作物保護技術など）

# 食料生産の現状

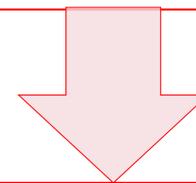
## 農薬を使用しない場合の農作物の収量

作物	収量減 (%)	収入減 (%)
水稲	24	30
小麦	36	66
大豆	30	34
トウモロコシ	28	28
りんご	97	99
もも	70	80
キャベツ	67	69
だいこん	39	60
きゅうり	61	60
トマト	36	37

農薬を使用しなかった場合…

- ✓ 収量の低下
- ✓ 収穫物の品質の低下
- ✓ 出荷金額（収入）の低下

生産性、経済性、持続性の確保は難しい



- ✓ 農薬は食料生産の生産性・持続性の確保に必須な資材であり、  
**「人類の持続性に重要な役割を果たす」**
- ✓ 必須な資材だからこそ、より安全で環境負荷の低い農薬の開発が必要

※(社)日本植物防疫協会における1991年、1992年及び2004～2006年の試験結果  
 農薬を使用しない場合の病害虫などの影響  
 減少率は慣行防除区との比較

# 当社の方針及び取組

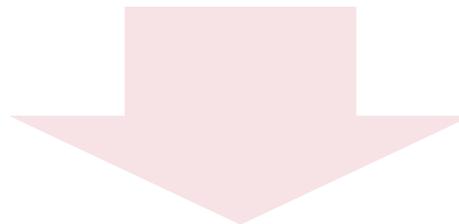
20～30年後におけるクミアイ化学の「あるべき姿」

食の安定供給を支える農業に貢献し、革新的な技術と  
独自の事業領域を確立した最先端の化学メーカー

中期経営計画（2021～2023）経営基本方針

革新的な技術開発、事業領域の拡大により、環境変化に対応可能な  
経営基盤を構築し、人々の暮らしを豊かにする製品・サービスの提供を  
通して、社会の持続的発展に貢献できる企業集団を目指す

- ✓ 環境保護やエネルギー問題等を含むみどりの食料システム戦略に  
示された姿が既に盛り込まれており、事業の方向性と一致



「あるべき姿」の実現により、みどりの食料システム戦略が掲げる「食料・  
農林水産業の生産力向上と持続性の両立」に資する革新的な技術の  
確立に取り組む

# 当社の方針及び取組

- ✓ 農薬は今後も食料生産に必須の資材であり、より安全・環境に配慮したイノベーション型農薬の開発を推進
- ✓ 研究開発力の更なる強化及び蓄積した研究成果の実用化を進め、農薬の枠を超えた事業領域の確立を目指す

## みどりの食料システム戦略に繋がる現在までの取り組み

### 化学農薬のリスク低減

- ▶ 生物や環境に及ぼすリスクがより低い化学・生物農薬の開発
- ▶ 薬剤抵抗性が発達しにくい農薬の開発

### スマート農業への参画

- ▶ 農機メーカーとの連携
- ▶ 栽培体系変化への対応
- ▶ ICT・IoTによる農業支援

## みどりの食料システム戦略に繋がる新技術開発

### 先進的な農業生産資材の開発（微生物農薬・バイオスティミュラント）

- ▶ *Rhizobium vitis* ARK-1株（特許取得済・2024年上市予定）
- ▶ *Bacillus*属菌（特許取得済・開発予定）
- ▶ *Lysinibacillus*属菌（国際特許出願済）

### バイオテクノロジーの応用

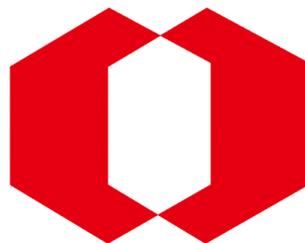
- ▶ 糸状菌改変による抗生物質の生産性向上研究を活用した医農薬製造技術
- ▶ ゲノム編集技術を応用した環境ストレス及び病害虫耐性作物の作出

### 温室効果ガス低減技術の開発

- ▶ 農地から発生するメタンガスの抑制技術（国際特許出願済）

ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る



ワミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>

クミアイ化学工業株式会社

経営管理本部 総務人事部 広報・IR課

TEL: 03-3822-5036

FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください <http://ir.kumiai-chem.co.jp/>